

コロナ禍の越年 命守る

県内NPO 困窮者支援を強化

コロナ禍で迎える年末年始を前に、路上生活者や生活困窮者を支援するNPO法人「やまなしライフサポート」(中山八十司理事長)が活動を強化している。生活や就労の相談が続いていることから、食料配布や夜間の見守りパトロールなどを実施。同法人は「困ったことがあれば気軽に相談してほしい」と呼び掛ける。

〈戸松優〉

笛吹市の男性(49)は5月、勤めている。

務先の宿泊施設を解雇された。ハローワークに通い再就職先緊急事態宣言以降、収益が見込めず施設が休業しているため、収入がゼロでは生活できず、求人が見つからず就職活動は「収入がゼロでは生活できない」と途方に暮れた。幸い社員の寮に住み続けることは認められ、約10万円の失業保険で暮らす来年2月までもう時間がな



食品を配布する「やまなしライフサポート」のスタッフ。就労や住まい、健康相談に応じている。甲府市中央2丁目

い。この先どう生きていけばいいのか。不安な年の瀬を迎える。

山梨労働局によると、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で解雇や雇い止め(見込みを含む)となった労働者は、15日時点で557人。同法人は「コロナ禍で生活や健康状態、就労に関する悩みを抱える人は多く、相談も増加傾向にある」とし、生活困窮者の健康相談や就労、一時宿泊支援のほか、自治体の支援制度、給付金の紹介などにあたっている。

2009年以降、12月末にはボランティアや生活困窮者らが炊き出しで一緒に食事を取り、出し物やビンゴゲームなどを楽しむ交流会を開催していたが、今年は感染防止のため初めて中止となった。食事を振る舞えないことから、24日にはレトルト食品や米、お菓子などを配布する。19日には山梨民医連も協力し、甲府市内で夜間の見守りパトロールを実施。路上生活者にマスクや防寒具などを届けた。

中山理事長は「つながりを求めて年末の交流会や炊き出しに訪れる人もいる。可能な範囲で顔を合わせ、生活の不安を少しでも解消したい」と話している。

24日は午後2〜4時に甲府市中央2丁目の甲府カトリック教会で食料配布を実施。電話相談も随時受け付けている。問い合わせは同法人事務局、電話055(241)2545。